

# 【 第32回オリンピック(東京2020) 】

2021年7月24日～8月8日 日本・東京

## 試合結果報告 8月1日 (日)

JAPAN	vs	ポルトガル
16	1st	14
15	2nd	16
	ex	
	ex	
31	TOTAL	30

### 個人得点

No.	NAME	1st	2nd	TOTAL
12	岩下 祐太			0
13	笠原 謙哉	1	1	2
15	部井久アダム勇樹	1	1	2
18	成田 幸平	1		1
19	徳田 新之介			0
20	渡部 仁	1		1
21	土井レミイ杏利	2	2	4
22	坂井 幹		1	1
25	元木 博紀	3	2	5
31	吉野 樹		3	3
33	東江 雄斗	2	2	4
38	水町 孝太郎			0
41	徳田 廉之介	4	2	6
43	吉田 守一	1	1	2
TOTAL		16	15	31

### 戦況

ヨーロッパ選手権6位、世界最終予選を勝ち抜いて出場したポルトガルと対戦。世界最終予選ではフランスに勝利し、本大会出場権を得た欧州の強豪国。メンバーも、欧州チャンピオンズリーグに参入しているFCポルト所属の選手を中心に、Barcelona(スペイン)、Montpellier(フランス)、Melsungen(ドイツ)など、欧州トップリーグで活躍中の選手を揃える。日本が1次リーグ突破のためには、この試合で4点差以上で勝利、または28点以上取って3点差で勝利することが絶対条件。

日本の攻撃は、プレーメーカーに水町、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がウイング、PVIに笠原の布陣。守備は、GK・岩下、笠原と成田でセンターDF、2枚目DFに渡部と水町、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-ODF」でゲームスタート。試合開始直後、ポルトガルはSilva(FC Porto)のリードからBorges(Benfica)のポストで先制。直後に日本は、クイックスタートから7人攻撃を仕掛けて、元木のサイドで1点目。ポルトガルも、ドイツブンデスリーガでプレー経験のあるFerrazの巧みなプレーなどで得点を重ねるものの、日本も7人攻撃を併用したオフェンスで得点を重ねていく。さらに、Gomes(Melsungen)のシュートをGK岩下が好セーブするなど、良いリズムを創出する。その後も水町の速攻からのブレイクスルーでポルトガルの退場を誘い、日本は6人対5人の数的優位のチャンス。徳田廉のカットイン、土井のサイドで加点。ポルトガルも、優位な体格を生かしてボールをピボットに集めて、Frade(Barcelona)のポストなどで得点するものの、日本は岩下の好セーブから部井久の速攻などで得点。その後も東江の速攻や徳田廉のミドルなどで得点を重ね、前半を16-14と2点リードで折り返す。

ハーフタイムでは、DFシステムと相手のPV対策やその他クイックスタートのシステム、オフェンスのポジショニング等について確認して後半に備える。

後半開始早々、日本は吉野が得た7mTのチャンスを元木が決めて、幸先の良いスタートを切ると、失点をしてクイックスタートから7人攻撃を仕掛け、これが奏功し、一進一退の攻防となる。しかし、後半10分、退場の間にポルトガルに4連取され、20-22と逆転を許す。ポルトガルも7人攻撃を仕掛け、得点を重ねていく。ミスも重なり、苦しい時間が続くが、岩下が変わって入ったGK坂井が好セーブを連発し、それを東江の速攻、エンピティゴールなど好プレーが続き、残り5分で26-26の同点に追いつく。元木のカットインで得点と同時にポルトガルの退場を誘い、残り3分から東江のカットイン、笠原の好DFから吉野のエンピティゴールで逆転。残り1分ではタイムアウトを請求。ベスト8への勝ち上がりに必要な条件と攻守の意図を改めて意思統一する。直後、作戦通りにチャンスを創出し、吉田が得点し、31-29とリードを2点に広げる。3点差での勝利を目指したが、ここでタイムアップ。31-30での勝利で試合終了。

日本は今大会初勝利をあげ、オリンピックの舞台ではソウル大会(88年)以来となる33年ぶりの白星(11位-12位決定戦・対アメリカ代表)を手にした。また、国際大会では6度目、また、オリンピックでは初となる対ヨーロッパ勢への勝利となった(64世界選手権ノルウェー戦、70世界選手権アイスランド戦、フランス戦、78世界選手権ブルガリア戦、11世界選手権オーストリア戦)。しかし、絶対条件だった3点差以上での勝利は達成できず、1次リーグ敗退が決定。最終順位を11位として東京オリンピック2020を終えた。

報告記入者 :

舍利弗 学